



学校図書館だより

令和3年2月
柏市立 中学校
柏市学校図書館指導員

2月号



2月、暦の上では「立春」「雨水(うすい)」を迎えます。二十四節気で「雨水」は、雪や氷がとけ、雨になって降り注ぐ意味で、農耕の準備をする目安となってきました。3年生はいよいよ入学試験も本番。1、2年生は学年のまとめの時期です。体調には十分気を付けてくださいね。学校図書館では、心が温くなる本を用意して、みなさんをお待ちしています。



はやぶさ2 カプセル帰還



小惑星探査機「はやぶさ2」が小惑星「リュウグウ」で採取した砂を入れたカプセルが、昨年12月にオーストラリアの砂漠に着地しました。宇宙航空研究開発機構(JAXA)は、採取された砂が5.4gであったと発表し、さらに分析を進めています。

「リュウグウ」は生物のもとになる物質(有機物)や水を含む「C型」の小惑星です。地球ができてまもなく、「C型」の小惑星が地球に降り注ぎ、水や生物の材料を運んだのではないかという説があることから、持ち帰った砂の分析が進めば、46億年前の太陽系の誕生の謎を解き明かすカギになるのではないかと期待されています。

参考資料 「読売KODOMO新聞」 2020年12月10日号

柏プラネタリウムを知っていますか？

柏プラネタリウムは柏市立図書館本館の二階にあります。ドームの直径は6mで、公立のプラネタリウムとしては全国で三番目の小ささですが、1975年から、美しい星空を映し続けています。感染予防のため、今は投影をお休みしていますが、柏市立図書館ホームページ内の「プラネタリウムの部屋へようこそ」では、宇宙のニュースや知識の紹介のほか、星空の見どころが毎月更新されています。再開が待ち遠しいですね。

柏市立図書館ホームページ <https://toshokan.city.kashiwa.lg.jp>

◆第164回 芥川賞・直木賞発表◆

*芥川賞

宇佐見 りん 著
「推し、燃ゆ」

(文芸秋季号・河出書房新社)

*直木賞

西條 奈加 著
「心淋し(うらさびし)川」

(集英社)



今月のおすすめ

テーマ「宇宙飛行士が書いた本」

有人宇宙飛行が始まって今年で60年。13年ぶりとなる日本人宇宙飛行士の募集7年以内に始まります。今後は5年ごとを目安に募集される予定です。みなさんにもチャンスあり！

『ライブラリーサーチ』の紹介文を一部引用しています。

『瑠璃色の星』

山崎直子 著 世界文化社 〈NDC538〉

『瑠璃色の地球も花も宇宙の子』この宇宙俳句に込められた地球の自然・生命への賛歌をいま、あらためて“宇宙の子どもたち”へ。夢に向かってがんばり続けた11年を経て、あこがれの宇宙へ飛び立った著者。なぜつらい思いをして、人間は宇宙をめざすのでしょうか？そして、なぜ宇宙から見る地球は美しいのでしょうか？宇宙飛行士として、母として、宇宙で考えたことを語ります。

『一瞬で判断する力』

若田光一 著 日本実業出版社 〈NDC538〉

「今、しなければならぬこと」は何か？知力、精神力、体力すべてが問われるJAXA、NASA(アメリカ航空宇宙局)で認められ、日本人初の国際宇宙ステーション(ISS)のコマンダーを務めた著者が、宇宙飛行士として培った仕事術を「想像する」「立ち向かう」「つながる」といった7つのキーワードから明かします。

